

「イスラム巡礼の地・ ますます発展する 通商経済都市——ジッダ」

サウジアラビア・ジッダ総領事

石榑利光

この連載では、外交の最前線「フロントライン」で活動する外交官に、現地の様子を語っていただきます。今回は、サウジアラビア西部にあり、紅海に臨む大都市・ジッダの総領事が登場します。

2006年4月にジッダへ着任するまで、中東に一度も足を踏み入れたことがなかった私にとって、年中灼熱の土漠の中、イスラム教の戒律を厳しく守っている当地は、すべてが新鮮で驚くことばかりでした。

ジッダは、サウジアラビア半島の紅海に面し、人口340万人余り、商

業の中心地として栄えてきたサウジアラビア第2の都市です。7世紀まで通商の中継地として、イスラム教が興ってからメッカ、メディナの2大聖地巡礼の玄関口として栄えました。1918年にはオスマントルコから一時独立しましたが、その後サウジアラビア西部地区の都市として発展しました。

この地には近隣アラブ諸国や、遠くは中央アジアやアフリカから巡礼に来て、そのまま居着いてしまった人々の末裔が多く、街は開放的でコスモポリタンな雰囲気があります。

近年西部地区は、建設開発ブームで活気づいています。ジッダの北には石油コンビナートが発展し、住友化学とアラムコ社との合弁事業で世界最大規模の石油精製・石化プラントが操業を開始しています。東京から横浜までの区域に匹敵する土漠に200万都市建設を目指す計画や、イスラム文明研究等の知的基盤経済都市



いぐれとしみつ

1970年外務省入省、1971年青山学院大学卒業。国連開発計画(UNDP)東京事務所長、在チェコ大使館参事官、国際緊急援助室長、欧州局西欧第一課欧州国際機関室長、福利厚生室長などを経て、2006年3月より現職。



第3回ジッダ旧市街ラマダン・ナイト・ツアー（サウジアラビア日本留学同窓生協会会員と在留邦人との交流行事）の様子

計画も開始され、国王自らが「知恵の館」として構想し、宗教的観点から禁止されている男女共学を認めた科学技術大学が開校しました。また、サウジアラビアの輸入の約60%が陸揚げされるジッダ・イスラム港と、それに隣接する各種工業団地と金融機関本社などがあります。ジッダの南には、紅海沿岸約45kmの土漠にいますが並

ぶ、石油に次いで日本に輸出されている海老の養殖事業がある他、エネルギー産業を中心とした経済都市計画も進展しています。さらにジッダを基点として、メッカとメディナ間に年間数百万の巡礼者を運ぶ高速鉄道敷設工事が開始しています。2008年秋からの経済危機後も、豊富な石油収入に支えられているため、大型経済開発プロジェクトが進められているジッダにはとても活気があります。

日本とサウジアラビアの交流は長く、半世紀以上も日本とのビジネスを通じて信頼関係を構築したサウジアラビア財閥関係者も多数います。今では乗用車市場の60%を、中型トラック市場ではほぼ100%を日本車が独占しています。近年では第一三共・アステラス製薬とターマル製薬会社間の合弁事業が、日本の製薬両社の特許新薬を製造販売して成功を収め

ています。また昨年8～9月の断食期間（ラマダン）には、ジッダ在住のサウジアラビア人ディレクター制作の「ハワティル（改善）」と題するテレビ番組が毎夕放送され、日本人の正直さ、清潔さ、伝統的文化習慣を保持している様子などが、アラブ社会と対比して紹介されました。これが大変好評を博し、この時間になると子どもから大人までテレビの前にくぎ付けになったそうです。おかげで日本への関心が一層高まり、当館では観光目的の査証発給件数がうなぎ上りで、いまだにその勢いは衰えません。

当地でサウジアラビアの人々の日本への関心をつなぎとめるよう努めつつ、他方、日本の方には、石油以外のビジネスチャンス獲得のため、ますます発展する可能性を秘めたジッダを中心とするサウジアラビア西部地区をぜひ訪れてもらいたいと思っています。